

特集2 愛知万博10周年記念 「インタープリター愛・地球ミーティング」

1 はじめに

2005年の愛知万博で行われた「森の自然学校」では、「森の案内人」と呼ばれるインタープリターが、自然の発するメッセージを楽しく分かりやすく伝えることにより、子どもたちを含む多くの参加者が、自然とのふれあいを通して「自然の叡智」を体感することができました。

今年、万博10周年の節目にあたり、改めて「自然の叡智」に学ぶことの大切さを県民の皆様に思い起こしていただき、その想いを次世代につなげ、環境面における人づくりの輪を一層大きく広げていくため、インタープリターに焦点を当てた「インタープリター愛・地球ミーティング」を平成27年10月に開催しました。

このミーティングは、世界6か国のインタープリターからの活動発表や意見交換、会場参加者との交流を行う「世界のインタープリターとのトークセッション」と、国内各地で活躍している約50名のインタープリターが愛・地球博記念公園全体を利用して実施する「自然体感プログラム特別企画」で構成しました。

また、関連事業として、愛知万博で実施された「森の自然学校」のプログラムを再現する「おかえり！森の自然学校」を、「愛知万博10周年第32回全国都市緑化あいちフェア」の開催期間に併せて、同公園内の県の環境学習拠点施設「^{まなびや}もりの学舎」とその周辺で開催しました。

万博10周年の節目にあたり、改めて「自然の叡智」に学ぶことの大切さを思い起こし、その想いを次世代につなげ、環境面での人づくりの輪を一層大きく広げるためのプロジェクト

インタープリター愛・地球ミーティング

＜世界のインタープリターとの
トークセッション＞（10月11日（日））



＜自然体感プログラム特別企画＞
（10月12日（月・祝））



＜インタープリター愛・地球ミーティング関連事業「おかえり！森の自然学校」＞
（9月12日（土）～11月8日（日））

【インタープリターとは】

インタープリターは、自然を体感するプログラムを通して、「自然の価値」や「自然と人との関わり」について分かりやすく伝える人のことで、愛知万博の「森の自然学校」での活躍を通して一般に広く知られるようになりました。

海外のことわざに「聞いたことは忘れる。見たことは思い出す。体験したことは理解する。発見したことは身につく。」というものがあります。

インタープリターは、自然の素晴らしさやその価値を単に知識として伝えるのではなく、参加者が自然を体験したり発見したりすることをサポートすることで、参加者の気づきや自主的な学びにつなげていきます。地球環境や自然の恵みを考え、行動する人づくりを進めるうえで、大切な役割を担っています。



インタープリターの活動の様子

【2005年日本国際博覧会（愛知万博）における「森の自然学校」の取組】

「森の自然学校」は、愛知万博のテーマ「自然の叡智」を体感できる環境学習プログラムの一つで、これまでの万博にはない初めての試みとして長久手会場の森林体感ゾーンで開校しました。

森の中での「自然」、「人（インタープリター）」、「アート」との出会い、五感と想像力を使う自然体感プログラムへの参加や体験を通して、「自然のしくみ」について学び、「自然と人との関係」に気づくための楽しいきっかけの場を提供しました。

期間中の参加者は50万人を超え、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が「自然の叡智」を体感しました。



愛知万博「森の自然学校」

【もりの学舎（まなびや）とは】

「もりの学舎」は、愛知万博における「森の自然学校」を継承・発展させるため、万博期間中に使用されたフィールドセンターの建物を愛知県が改修して、平成19年3月に開館しました。

インタープリターによる「もりのツアー」など、県民の方々が楽しみながら環境について学べるプログラムを土・日・祝日を中心に実施しており、平成27年7月12日には来館者40万人を達成しました。



プログラム参加者と「もりの学舎」外観

2 世界のインタープリターとトーク・セッション

トーク・セッションでは、アメリカ、スリランカ、ドイツ、ケニア、コスタリカの5カ国及び日本で活躍するインタープリターを招き、それぞれ

の活動発表、インタープリター相互の意見交換、会場参加者との交流等を行いました。多くの会場参加者にとって、グローバルな視点で地球環境や自然の大切さを考える機会となりました。

【世界のインタープリターとのトーク・セッションの概要】

1 日時

平成27年10月11日（日）午後1時から午後4時まで

2 場所

愛知県立大学長久手キャンパス講堂

3 出演者

世界のインタープリター

氏名	国名	職名等（敬称略）
アンバー・パーカー	アメリカ	シンコティーング湾フィールド・ステーション事務局長
サラス・コダガマ	スリランカ	コロombo大学教授（環境科学・動物学）／鳥類学者
ゲーザー・ヴォルツェ	ドイツ	ズュートプファルト「森の幼稚園」理事
サムウェル・ナイカダ	ケニア	マサイの森「デュポト・フォレスト」リーダー
ジェイミー・セデーニョ	コスタリカ	環境エネルギー省保全地域庁地域連携環境教育コーディネーター
浅野智恵美	日本	NPO 法人もりの学舎自然学校インタープリター

コーディネーター 川嶋 直（公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長）
 司 会 鉄崎幹人（アウトドア自然派タレント）
 堀江美穂（ZIP-FM ナビゲーター）

4 会場参加者数

約500人

5 プログラム

- アトラクション カラーキッコロによるパフォーマンス
- 開 会
 - ・主催者あいさつ（大村秀章 愛知県知事）
 - ・来賓あいさつ（杉浦孝成 愛知県議会副議長）
- メインセッション（世界のインタープリターの活動発表）
- 交流セッション（インタープリター間の意見交換、ステージと会場参加者との交流）
- 「インタープリター愛・地球ミーティング」メッセージの発表
- 閉 会

6 その他

- ・講堂ホワイエで、県内のNPO、企業、学生、自治体等による環境取組のパネル紹介等
- ・トークセッション終了後に関係者交流会を愛知県立大学食堂で開催
- ・子育て世代の参加を促すための託児を実施

(1) メインセッション

メインセッションでは、世界のインタープリターが自らの活動発表を行い、どこで、誰に、どのような活動を実施しているのか、そして、どのような思いで活動しているのかなどについて、色鮮やかな写真や動画、具体的なエピソードを交えて楽しく紹介されました。「泥の香りが生涯記憶に残る」、「静寂を聴く」など、参加者の感性を揺さぶる言葉、心に残るフレーズがいくつもありました。



印象的な写真を多用した活動発表

【世界のインタープリターからのメッセージ】

(敬称略)

□ アンバー・パーカー【アメリカ】

泥の中で足を濡らして自然を体感した経験は、記憶に深く刻まれます。自然体験を通して、私たちは自然の一部だということを知り、自然を慈しもうという気持ちが生まれてくると信じています。



□ サラス・コダガマ【スリランカ】

インタープリテーションとは、何かを説明するのではなく、参加者の心に事実を伝えること。自然は体感しなければ分かりません。自然の声を聞いてください。ただ手をこまねいているのではなく、行動することが必要です。



□ ゲーザー・ヴォルツェ【ドイツ】

幼少時代は、感性を養う時期。子どもたちにとって冒険はご褒美。幼い頃に自然を体感する機会を提供することが、かけがえのない自然を尊重する、自立した人格を育てる一番の方法だと思います。



□ サムウェル・ナイカダ【ケニア】

森では、人と自然の関わりや自然の大切さを体感でき、自然からの恩恵に気づくことができます。次世代に豊かな自然を残すため、みんなが考え方を換え、環境を愛し、環境保全のために変化を求めていくことが大切と考えます。



□ ジェイミー・セデーニョ【コスタリカ】

環境問題を解決するためには、答えをすぐ求めるのではなく、体験を通して感性に働きかける必要があります。言葉を並べるよりも多くを伝えることのできる「行動」を通して、皆で環境の大切さを分かち合うことが重要です。



□ 浅野智恵美【日本】

大切にしたいのは、参加者が発見する喜びです。参加者にワクワクしながら五感をフル活用して旬の自然を体感いただけるよう演出しています。



(2) 交流セッション

次の交流セッションでは、コーディネーターの進行のもと、6人のインタプリターが、他のインタプリターの活動に対する感想やインタプリテーションを通して参加者にどうなってほしいかをテーマに話し合いました。「国や文化は異なっても、参加・体験型のプログラムを提供をしている」、「五感で自然を知ることが大切である」といった意見が出され、6人のインタプリターが同じような思いで活動をしていることが会場参加者にも伝わりました。

また、会場参加者からも「幼い頃に自然に触れることが大切だ」、「自然を感じることから始めよう」などの意見が出されました。



回答を準備するインタプリター

(3) メッセージ発表

トークセッションの締めくくりとして、「織り上げよう、持続可能な未来を。」

私たちと、将来世代の幸せのために。

『自然の叡智』を縦系に、

『豊かな交流』を横系にして。」

というメッセージが発表されました。



スクリーンに映されたメッセージ

(4) 閉会

最後に、司会者から「自然体感プログラムに興味を沸いた人や、参加したくなった人、インタプリターになりたくなった人は、色紙を挙げてください。」との声かけがあり、それに応えて多くの参加者が色紙を挙げ、会場全体が、自然体感の素晴らしさや大切さを共感する雰囲気になりました。



色紙で応える参加者

(5) 交流会

トーク・セッション後には、国内外のインタプリターを始め、環境活動団体、企業、行政関係者等による交流会を開催しました。



交流会の様子

3 自然体感プログラム特別企画

10月12日(月・祝)には、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)全体を会場として、自然体感プログラム特別企画を実施しました。

愛知万博で活躍したインタプリターなどを中心とした総勢54名により、「もりのツアー」、「工作教室」などの多彩なプログラムを行いました。これらのプログラムには、海外インタプリターを含む延べ約7,000人が参加し、「自然の叡智」を思い出したり、自然と人間との関係を見直すための気づきを得るきっかけとなりました。

【自然体感プログラム特別企画の概要】

インタープリターと歩くもりのツアー	
ネズミとドングリものがたり	ネズミになったつもりでドングリを隠すことを通し、森の中の生命のつながりに気づく。
水辺の小さな美術館	公園内の風景を各々の感性で切り取り観察することで、多様な生き物や互いの関わりに気づく。
おしゃべりな森	木や石などの自然物を擬人化することで、自然が発しているメッセージを想像し、感性を育む。
あそび工房(工作教室)	
森のフォトフレーム	森の中で見つけた自然素材で写真立てを作ること、自然物の造形の面白さや美しさに気づく。
むささビー	ムササビを模した遊具(フリスビー)の工作を通じて、地域の森の大切さについて考える。
おもいで教室	
かえるが鳴くから、かーえろ♪	遊びに対する価値観の昔と今の違いに気づき、今後の生活に活かせる知恵を発見する。
おもいででの青空教室 “美味しいお弁当”	お弁当の中身から、普段の暮らしと世界との関わりに気づき、今後活かせる知恵を発見する。
セルフプログラム(参加者が自分自身で行うもの)	
森あそびセレクトツアー (デジカメ 575)	森の中で撮った写真をはがきに印刷し、写真に合った一句をひねり、自然への感性を磨く。
絵ものがたりの散歩道 (「ゴンちゃんモンちゃんの冒険」、「そよこ」)	森の中を散策しながら絵本を楽しみ、人と森のつながりや生き物の生態、森の循環を知る。
森の図書館	森の中で「あいち環境絵本」を楽しみながら、様々な環境問題に気づく。
生物多様性・電子絵本	私たちの暮らしを支える「生物多様性」を学ぶ。
塗り絵コーナー	沢山の色の色鉛筆を使って塗り絵を楽しみながら、自然への感性を磨く。



インタープリターと歩くもりのツアー
(ネズミとドングリものがたり)



あそび工房(工作教室)
(森のフォトフレーム)



おもいで教室
(かえるが鳴くから、かーえろ♪)



おもいで教室
(おもいででの青空教室)



セルフプログラム
(絵ものがたりの散歩道)

自然体感プログラム特別企画 会場図

(愛・地球博記念公園)

第1部 特集2



[地球市民交流センター]
森のフォトフレーム

[大芝生広場]
おもいでの青空教室
“美味しいお弁当”

[林床花園]
絵ものがたりの散歩道

[親林楽園]
ネズミとドングリものがたり
森あそびセレクトツアー
森の図書館

[もりの学舎]
おしゃべりな森
むささびー
かえるが鳴くから、かーえろ♪
生物多様性・電子絵本

[かめの池]
水辺の小さな美術館

4 おかえり！森の自然学校

インタープリター愛・地球ミーティングの関連事業として、全国都市緑化あいちフェア期間中の9月12日（土）から11月8日（日）の土・日・祝日を中心に、自然体感プログラム「おかえり！森の自然学校」を実施し、延べ約45,000人が参加しました。

この自然体感プログラムは、愛知万博で実施された「森の自然学校」を再現するもので、現在、もりの学舎で活躍しているインタープリターにより実施されました。

【おかえり！森の自然学校の概要】

インタープリターと歩くもりのツアー	
森の万華鏡	鏡を使って森を見ることで、光と自然がおりなす美しさに気づく。
オリジナル家紋づくり	家紋をとおして、日本人と自然との関わりについて考える。
あそび工房(工作教室)	
さわってちょう	つるつるした物や、ざらざらした物を使って、手帳を作ることにより、感触の違いに気づく。
どんぐりころころ迷路	木の実や小枝を使って迷路を作り、どんぐりを転がせることにより、自然を使った遊びを学ぶ。
おもいで教室	
いただきます！給食の時間	食に対する価値観の昔と今の違いに気づき、今後の生活に生かせる知恵を発見する。
セルフプログラム（参加者が自分自身で行うもの）	
森の探検ゲーム	探検シートを片手に森を観察することにより、自然の不思議を発見する。
絵ものがたりの散歩道 （「もりのうた」、「そよこ」）	森の中を散策しながら絵本を楽しみ、森のつながりや生き物の生態、森の循環を知る。



インタープリターと歩くもりのツアー
（オリジナル家紋づくり）



あそび工房（工作教室）
（さわってちょう）



おもいで教室
（いただきます！給食の時間）



セルフプログラム
（森の探検ゲーム）